

平成27年度第1回「森の京都実践者会議」結果概要



1 日時：平成27年4月24日（金） 15時30分～17時30分

2 場所：ギャラリーかめおか（大広間：桜）

3 出席者：別添の通り

4 概要

（1）あいさつ（岡西副知事）

- ・ これからは、「森の京都」構想を実行に移していく段階。森の京都は平成28年度がターゲットイヤーとしており、時間がないので、やれることからやる。
- ・ 先行事例である「海の京都」と同様に、ブランド力、コンセプトをしっかりと作り込んでいくことが大事。
- ・ 美山や北山杉など個別のブランドはあっても、首都圏など外から人を呼び込めるまでには至っていない。例えば美山では、かやぶきの里に行った後はどこに行くかなど連携をしっかりと作り込むことで、人をわざわざここに来てもらえるところまで引き上げていきたい。
- ・ あらゆるところで自分たちが森の京都のメンバーだという意識をしっかりと持って、森の京都のブランド力を前に出していくことが重要。ブランド力が出来上がれば、TV番組の作成や博覧会の開催などで、築き上げたコンセプトを一気に発信していくことにつながる。
- ・ それぞれの取組も根っこはつながっているので、この推進会議の場で、しっかりコミュニケーションを取って認識を共有していくことが重要。

（2）「森の京都構想」（最終案）の説明（事務局）

- ・ 構想で特に大事なものは「目指すべき姿」と、「森の生活スタイルの再定義・発信」。ただの田舎ではなく、おしゃれで文化的ということをつくっていく。地域の方々が自ら住んでいるところの良さを発見して、みんなに「かっこいい」と言ってもらえるようなものをつくる。
- ・ それだけではなく、お金儲けの仕組みがないと、雇用につながらない。魅力のあるものをサービス業等に変えていく。林業では、「森の京都」の木材としてストーリー展開をしていくなど、付加価値をつけてお金にかえていく。
- ・ 最終的なゴールは、交通の便も比較的良く、職や子供を育てられるだけの収入源があり、かっこいいところなので半定住やここに住んでみようかと思えるところにする。
- ・ 一時的な流行のもので「森の京都」を終わらせず、このエリアを100年後、200年後と続く持続的なものに切り替えていくことがポイント。

（3）構想推進に向けた取組について

① アドバイザーの配置と活動内容について（事務局）

- ・ 「森の京都」のアドバイザー業務について、委託先をじゃらんリサーチセンターに決定した。今後、各市町のマスタープラン策定や地域づくりに向けたワークショップなどの取組に参加してもらい、一緒に進めていきたい。
- ・ 今回の提案資料（森の京都構想（案）の推進に向けたご提案）は、現時点における考え方をまとめたものなので、これで決定するものではなく、参考として見ていただきたい。今後、地域の方々のご意見を伺って、実現したいと思っておられることを吸い上げながら、つなげていきたいと考えている。

- ・ この実践者会議に、様々な専門家の方に入っていただきたいので、候補者の情報を事務局に提供いただきたい。

②全国育樹祭の概要について（事務局）

- ・ 平成28年度に第40回全国育樹祭を京都府で開催する。「森の京都博（仮）」の象徴的行事となる。
- ・ 記念式典や、併催行事をすることが目的ではなく、林業や地域を振興するための盛り上げ行事であるので、その過程が一番大事と言われている。
- ・ 記念行事や併催行事を「森の京都」の地域全体に散りばめて、「森の京都」を見せていきたい。
- ・ 今年度実施する盛り上げ行事として、全国育樹祭を知っていただくためのキックオフイベントを各地で実施。また、林業大学校が「森の京都」の中での大きな資源だと考えており、「森の京都学」と位置付けて、京都の森の文化を再発見するツアーを開催記念事業として実施予定。

③森の京都観光推進協議会、音楽祭について（事務局）

- ・ 昨年度は、特に「観光」という切り口で会議をもつことはできなかったが、今年度は、観光を中心に進めていく母体として、「森の京都観光推進協議会」を立ち上げたいと考えている。関係市町、観光関係団体、みなさまの中から手を上げていただきご参加いただきたい。この実践者会議の下に、観光推進協議会をおきたいと考えている。
- ・ 「森の京都観光推進協議会」では、各地域の戦略拠点となる観光資源の掘り起し、地域のブラッシュアップ等について、じゃらんさんとも連携しながら取組を進めていきたい。
- ・ 第1の取組として、平成28年度ターゲットイヤーのプレイベントとしての位置づけで、「森の京都音楽祭」を今年度開催したいと考えている。実施方法等については、今後みなさまと検討していきたい。
- ・ 森の京都の観光についてのホームページを府ですでに立ち上げているので、みなさまに情報を提供いただきながら、充実させていきたい。

(4) 「森の京都」実現に向けた各地域での取組等（→は岡西副知事・本田企画理事、事務局のコメント）

■京都市右京区京北

- ・ 京北で、村おこしのお手伝いをして7年。「森の京都」プロジェクトを期により多くの人達の想いを結集し、現在、京北で抱える林業の再興、少子高齢化、エネルギー問題の解決に向け新たな仕組みを作りたいと思っている。
- ・ 京北でも定住人口を増やす為、様々な取組がなされている。そのためには雇用が必須条件で、林業の再興が何より望まれていると考える。戦後の効率最優先の経済政策の結果、木の代わりに鉄・コンクリート・化学製品が身の回りに増え、気がつけば、僅か70年前の京町家や茅葺き集落の風景が今や珍しい貴重な観光の対象となっている。
- ・ そこに何を求めて多くの人を訪れるのか。京都市内まで車で、40-50分の京北に、自然と共に暮らしたい人、退職後田舎暮らしをしたい人達が、住みたくなる様な夢のある生活環境を作りたいと考えた。
- ・ 農林業に従事する人達は都市部の人と比べ、70、80歳代でも元気に働いている。しかし独居生活になれば、家の管理、健康の管理など、一人で健全な生活を、維持するのが困難になってきている。そこで、一人では出来なくても、それぞれの労力と時間を集約し、働ける場と仕組みを作り、共に働くのであれば、まだまだ元気で社会貢献が出来ると思う。
- ・ 農山村地域における人口減少により、学校が統廃合されており、その後の利活用が望まれている。定住人口を増やすためには、リゾートマンションと、そこが生産拠点となる基本構想が大事。

[ケア付きリゾートマンションの基本構想]

- 1) 高齢化社会に向けて

- ・食事入浴のサービス、24時間の緊急対応が得られる。
- ・多目的ホールがあり、ミニコンサート・スポーツ・ヨガ・ダンス・趣味の教室が開ける。
- ・施設の住人が、その施設の維持管理、運営に加わり、その作業の一部を担う。
- ・施設の内外で農産物の生産と、その加工を意欲のある人で行う。

2) 地方創成に向けて

- ・施設近くにバイオマス発電所を作り、その温水を施設の温泉と暖房、温室栽培の熱源に利用する。
- ・建築、リフォームする際は地元産の木材を使い、成功した先行事例を取り入れる。オランダING銀行総合施設は、同時期、近隣の銀行よりエネルギーの消費量が92%少なく、資源効率性、環境への配慮、人間の幸福、財務面での成功を達成している。
- ・京北の景観は、京都の里山であり、京都の奥座敷と、位置付け京都市の景観条例を適用し、木化都市のモデル地域とする。
- ・他の地域は、実行部隊の代表者が出席されており、京北としては、焦りを感じる。ここで聞いた話をいかに地域に落とし込んで、地域でのコンセンサスをつくるかということが自分の役割だと考えている。
- ・京都市で、京北地域における28年度から5か年間の過疎地域活性化計画を策定中だと聞いている。地域のポテンシャルなどの調査結果を市に提出しているのので、概ね反映されたものになっていると考えるが、その中身が「森の京都」構想案の目指す方向に共通している。

■南丹市

- ・南丹市美山町では、昨年「森の京都」の推進に向けて、京都府、南丹市、美山地域の3段階でいろいろな議論をしてきた。府の実践者会議の委員として3名、南丹市には8名出ているが、森の京都が美山の中で全体のものとなりにくいところがあった。今年度、「森の京都」美山推進会議は、24名の委員で進めていきたいと考えている。
- ・美山における森の京都事業は4つの項目に絞り、プロジェクトを設けて具体化したいと考えており、できれば、9月までにとりまとめていきたいが、こうした取組にアドバイザーを派遣いただけるのか。

→ アドバイザーの派遣については、言っていただければいつでも対応させていただく。

- ・美山町は、平成元年から観光都市交流ということで行政が取組を開始し、15年にはたくさんの方が来られるピークの時期があった。マスツーリズムが中心で、観光バスがたくさん来て観光スポットに寄ってさっと帰っていかれるようなものであった。それに合わせて、美山町の人や文化と深く交流していただき、美山町に住んでみたいと思える人を増やせるよう、エコツーリズムという観光事業に取り組んだ。平成22年に「エコツーリズム推進協議会」を設立、昨年11月には国から「エコツーリズム推進全体構想」の認定も受けた。
- ・美山町の魅力は、素晴らしい森、暮らし、家、食などがあることで、自然と森と共存してきた日本の文化を観光客に再発見してもらいたい。
- ・美山町の「森の京都」推進事業として、地域の方々に13の提案をいただいたが、優先順位を決めて、4つの項目に絞った。プロジェクトチームを作って進めていくための人選をしているところ。
 - ① 「森の京都」らしい木材を活用した「ビジターセンター」の開設。今年度秋の国定公園指定に合わせて、リンクするようなものを開設したい。
 - ② 交通の便をよくするため、独自性を出したオープンカーのような「青空バス」や、芦生の森の中にある「トロッコ」の整備。

- ③ 美山の「道の駅」を再構築し、安全性を向上させるとともに、単なる販売の場ではなく、学びや楽しみの場となるようにしたい。
- ④ 観光振興策の一環として、木造の「宿泊施設」を整備したい。海外からのお客様が増えており、宿泊形態が変わってきているため、個室というニーズに対応できる施設が必要。

→ まさにこういうやり方をやっていきたい。コンテンツとしては、かやぶきの里や芦生の森、国定公園化などがあるが、ビジターセンターや宿泊施設が不足しているということ。

■福知山市

- ・ 福知山市でメインになってくるのは大江山。大江町側は鬼の四天王の伝説があり、天座では鬼を退治した源頼光の伝説が残っている。この2つをどう結びつけていくか。
- ・ 観光、経済にいかに関わり付けていくかを考えると、地元の木を使った宿泊施設の整備に取り組めないか。この地域にも廃校などがあるので、大江山の森林探訪で、福知山市側から大江町側へ抜けていけるよう、両側に宿泊施設があればいい。雇用も生まれる。
- ・ 森林は整備しないと明るくならないので、子供たちが安心して登れる環境をつくることも大事。
- ・ 副知事の「おしゃれでお金を儲ける、生産性をあげる」という発言が一番心に残った。
- ・ 内田さんがプレゼンの中で話されていた「インナー情報をしっかり出す」ということを経営の中で実践している。地域活性化のために、会社としても、行政からおりてくることを、地域の皆様にきっちり教えて、情報を伝えて協力してもらおうということが一番大事だと考えている。
- ・ 英語が堪能な若い職員を雇用した。外国人からの意見を聞いて、現状分析などを行っているところ。
- ・ 宿泊施設の稼働率は50%程度だが、夏は足りない。

→ 鬼の話や頼光の話などのコンテンツがあるが、それを絵に描いてデザインにしたものや見る場所がない。また雲海もあるが、どういうコンセプトで打ち出すのかまだ整理ができていない。宿泊施設の稼働率の波動をどう抑えるかなども含めて、アレンジの仕方を考えていく。

■綾部市

- ・ 7年前に、里山と森に憧れて京都市内から綾部にIターンした。Iターン後、地域活動として農家民宿を増やす活動とツリークライミングをしていた。
- ・ 綾部の拠点施設としては、里山交流研修センター（里山ねっと）があり、都市農村交流や里山の文化発信ではかなり知名度がある施設。
- ・ 綾部の魅力として、Iターン者と地域活動を頑張っている方が多い。特にIターン者が多い地域は東部エリアの上林地域で、いろいろな地域活動をしている。
- ・ 「水源の里」という取組で、自治会や集落が中心となって、栃の木を守る活動などを行っている
- ・ 上林エリアでは巨木が見つかり、エコツアーでお金を落として楽しんでいただく仕組みにつなげていきたい。
- ・ ツリークライミング、ツリーハウスづくり、ウォータークライミングなど、自然や森を活用した企画をしたい。

■京丹波町

- ・ 今年7月に全線開通される京都縦貫自動車道の中にある道の駅「京丹波 味夢の里」の運営を任されている。京丹波町だけでなく、京都府の情報発信の基地という認識の上で運営していきたい。
- ・ 現在、阪急交通公社で、「第1回道の駅めぐりツアー」を開催していただいている。丹波マーケスには、連日、大阪市内などからツアーを組まれてこられている。多い日には、バス

7～8台で300名以上ご来場される。少ない日でも、バス1～2台で50名程度の来場者がある。3～4月で通算5000名以上という実績。6000円で1000円のクーポン付ツアー。今は京阪神地域の方に魅力的なツアーとなっているが、縦貫道が開通すると、中部圏や三重県からの来場者も見込める。

- ・ 京丹波町としては、実践者と共に「京丹波の森づくりプラン」を作成している。5月5日に「森のるるぶ」を開催し、重点地域である府立丹波自然運動公園と府立須知高校の学校林（ウイードの森）を使って、子供たちに体験してもらえるようなイベントを実施予定。
- ・ 「京丹波 味夢の里」では、林業大学校とコラボをしており、ウイードの森で間伐されたヒノキを使って、岡村製作所で什器を制作していただいている。建物には府内産の木材を多用しており、木質化された建物ということも感じていただける。

→ ウイードの森は、普通の人にはなかなかアクセスできない。ストーリーが周知されておらず、まだデザインできていないので、そういったことを整えてコンテンツに変えていく。宿泊客を狙うのかどうかなども含めて、トータルでプランを考えていく。

■ 亀岡市

- ・ 亀岡は、景勝地も多くあり、いろいろな観光開発もされている。トロッコのお客様が100万人となるところで、これをどうつなげて展開していくかがポイント。
- ・ ききょうの里や夢コスモス、石田梅岩によるまちづくりなどで町おこしをやっているところ。梅岩記念館を5年計画でつくりたいと考えており、ハイキングコースなどで森の京都とつなげていける。
- ・ 食では、福知山や綾部まで考えると、牡丹鍋やマツタケ、クリなど日本一のものがある。

→ トロッコ、温泉、食があるので、どういうアレンジで森の京都で付加価値をつけてさらに何を狙うのかを整理する。トロッコで京都市内に戻ってしまう人々をいかに上に引き上げていくのか、「森の京都」で戦略を練っていく。

《全体総括》

→ すぐにやるべきこと、長期的にやるべきことを分けて考える。少なくとも、一年後これはやった、これは変わったと言えることをつくる。50cmでも前に進むことが大事。

(4) 意見交換（※→は岡西副知事・本田企画理事、事務局のコメント）

< 推進会議メンバー >

- ・ 会社としてできることは、いろいろな方に関心を持っていただくこと。
- ・ 3年ほど前から、美山町のかやぶきの里に行く定期観光バスのコースを運行している。パンフレットの中にも「森の京都」と書いて掲載している。
- ・ 今年の2月に、「お茶の京都」、京都西の観光のコースも作り運行した。
- ・ バスに乗っていただいたお客様に対して、3つの京都のご紹介もしている。

→ 断片的な各地域のお話をしていただいたが、ちょっとずつ合わせるとひとつのものになると思う。京阪さんの話が最終的な出口で、パンフレット1冊が埋まるくらいのコンテンツを「森の京都」で作れるかどうか。

< 推進会議メンバー >

- ・ 林業を振興していくためには、木を使った公共施設を建てていくことも行政から考えてもらいたい。

→ 味夢の里では、府内産木材を利用している。「森の京都」では、徹底していけたら良い。

- ・ 全国育樹祭で、子供にも参加してもらう方法を取ってもらいたい。将来を担う子供に、山を見せたい。

→ 全国育樹祭では、緑の少年団が重要な主役となっている。現在も府内各地でいろいろな活動をしており、日常的に山の中に入らせていただいている。年に1度、府内の緑の少年団が集まり交流を図っている。今回は、全国緑の子どもサミットとして開催し、全国から緑の少年団に集まっただけ。記念式典でも、殿下へのエスコートなど中心的な役割を担っていた。ボーイスカウトやガールスカウトを母体とした緑の少年団も入っている。

<推進会議メンバー>

- ・ 移住コンシェルジュとあるが、具体的な計画や実施例はあるのか。
- もともと京都府農業会議で、田舎暮らしの相談などはしていたが、あまり情報発信ができていなかった。その反省を踏まえ、昨年度から、国が主導で作った、様々な自治体が田舎暮らし情報を発信する拠点において、府でも民間業者に委託し、ワンストップで相談から現地案内まで行うコンシェルジュを2人常駐している。また、地域の実情を一番把握しておられる地域の方を20名ほど指名している。
- 移住者数は、これまで30名程度の実績だったが、昨年度は3倍強の108名となった。今後もこの取組を続け、移住促進につなげていきたい。

<推進会議メンバー>

- ・ 林業を経営しており、ここ数年で10名程度雇用したが、林業のことをインターネットではじめて知ったという人もおり、林業を知らない人が多いので、「森の京都」で林業とはどういうことをやっているのか発信をしていただきたい。

<推進会議メンバー>

- ・ 自分たちにできることとして、手作りのプランターを置いたり、花畑を作ったり、若い世代や地域に向けてマルシェを開くなど、ソフト面でにぎわいづくりのための計画はしている。
- ・ ターゲットイヤーに向けて、ハード整備をするとすると、非常にタイトな状況になると思う。また、簡単ではないような課題が山積しており、自分たちでデザインを描くのはハードルが高いと感じる。アドバイザーに協力いただけるのはうれしいが、期間的に準備できるのか心配な面があるので、スケジュール感を教えてほしい。

- ・ 「海の京都」は、2年やってきた成果を見てもらえるようにターゲットイヤーを設定。「森の京都」は、多くの方が来られる大きなイベント「全国育樹祭」が来年度あることを考え、一定のところで成果を見せて、これからの弾みにしていきたいとの思いから、28年度をターゲットイヤーとしている。全国育樹祭は秋だが、山の日が8月11日にあるので、その時期を狙いながら事業化していきたい。
- ・ 各地域における取組の中でも中長期的なもの、短期的なものがあるので、中期的なものはターゲットイヤーに着手まで目指すなど、行政も地域も、広域的な地域構想の実現に向けて覚悟を決める必要がある。
 - ・ 早い段階でのターゲットイヤーとなるが、ここで目指したい「森の京都」スタイルを共有し、大きくステップアップする。府としても必要な資源を投じるので、地域の方々にも一致団結して頑張っていたきたい。
 - ・ 今年度の秋から、翌年度の予算の協議が始まるので、そのときにはターゲットイヤーでどういうことをやりたいか、ある程度決めておく必要がある。
 - ・ 長期的には、住民の皆様のやる気がないと将来的に続かないので、その点も抑えながら頑張っていたきたい。
 - ・ 28年度まで一定の資本投資をして、それから先どうするかについては、ターゲットイヤーである程度の目処がつけば、その次につながるが、何もなければ行政としては次の手が打ちにくくなるので、意識してやってもらいたい。

<推進会議メンバー>

- ・ 緑の少年団は、京都府ではものすごく少なく、特に丹後地域にしかない。モデルフォレス

ト・全国育樹祭推進課の方から、核になるものがあればお金は出すと言われており、育樹祭を契機に、京都市など人口が多いところで緑の少年団を立ち上げることはできないか。

→ 近年、子どもたちの生活が大変多忙になり、学校外の活動への参加が難しくなっている。子どもたちが森林に触れる機会を持っていただけよう、ボーイスカウトなどへの働きかけなども通じ、緑の少年団活動の推進を呼びかけているところ。

以上